

# ほむ・ほむ通信

No. 23

## ユニセフ ハンド・イン・ハンド

今年も各地で  
活発に開催！

### コープぎふ

県内16箇所で23日を中心に実施しました。生協県連がリードしてくれているそうです。「ハンド・イン・ハンド ボランティアになりませんか？」と募

集のチラシを作成して、募金活動に参加してもらうことも広く呼びかけました。学校生協、岐阜大学生協もボランティア申し込み先になっています。「ユニセフ募金」と大きく書かれた立派な**のぼりも登場**したようで、(県連が50本作ってくれたそうです)アピール効果もよりあがったのでは

ないでしょうか。たのしい雰囲気を大切にしていって、**サンタのふん装**をしたり、サンタの帽子(手作り?)をかぶったりしたそうです。一番参加人数が多かったのは岐阜市内の柳瀬高島屋前で、総勢40人あまり、たくさんの中学・高校、大学生の参加もありました。職場見学で、交流のあった中学の生徒会に声をかけたところ、実際に**中学生が参加**してくれたのは、うれしい新しい広がりです。コープの枠をこえた、若々しい元気な様子が印象的でした。

(コープぎふ 総合企画部 組織活動支援 丹羽さんにうかがいました)

岐阜県生協特製ユニセフ募金ののぼり



### コープあおもり

コープあおもり「**平和ユニセフ委員会**」は、県内6地域から選出された委員さん11名プラス事務局で構成しています。月1回集まり、年間の行事を企画、実行しているそうです。パネル展、つどいなども企画します。ハンド・イン・ハンドはコープあおもりになってから10年、合併以

前も実施していた歴史ある行事の1つとして定着しています。6地域それぞれが工夫をこらして、行っているそうです。**なにぶん雪の時期**ですので、11月から12月初め、中には10月に行うところもあります。また、そんな土地柄ならではのあたたかい**おしるこ**などを販売して、売上金を募金にあてる方法は好評で、2地域で今年も実施しました。ポスターをとりよせ、今年のテーマ「**女の子にも学校へ**」のチラシを配ったことで、より理解を深めてもらえたのだと思います。「一緒に募金活動をしませんか？」とボランティア募集をよびかけるのですが、実際の参加となると中々むずかしいです。でもこのハンド・イン・ハンド募金の活動は、地域の人や子供たちにユニセフを知ってもらえる良い機会ですので、**大切にしていきたい**と思います、と力強い思いをうかがうことができました。

(コープあおもり 組合員活動部 高橋MR にうかがいました) (山本)



これは中央大会でのアグネス・チャン

毎年年末が近くなると、生協におけるユニセフ活動のひとつのピークがやってきます。それは、日本ユニセフ協会が呼びかけるハンド in ハンドの他に、カレンダー募金やお年玉募金といった生協ならではの活動が、全国津々浦々それぞれさまざまな形で取り組まれているからです。そんな活動の様子を、今回はいくつかご紹介します。

# ユニセフ カレンダー募金

気がつけば11年... コープかながわ “あしたば”グループ

## 生協のお店を拠点に

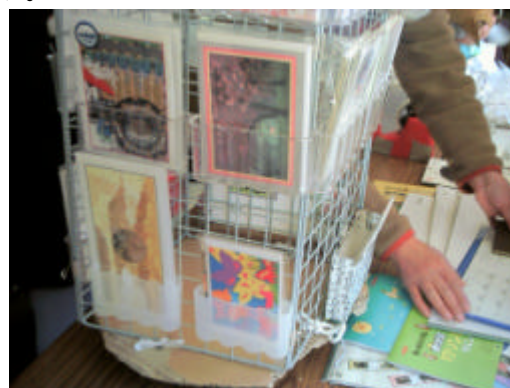


意外と男性の姿が多いのにびっくり！

今年で12年目を迎えたというあしたばグループのカレンダー募金は、コープかながわ善行店の店頭を会場に、毎年1月の第2土曜日を開催日と決めて取り組まれています。

当日は開店前から組合員の方々が集まっていて、店頭並び始めたカレンダーを見比べたり、パラパラとめくったり...中には家にあったカレンダーを持ってきて寄付し、代わりに自分の気に入ったカレンダーを買っていく組合員さんもいました。「毎年やっているからよく知っているよ」あてにしているから他では買わない」など、すっかり地域に定着している様子です。

集め方は、12月末頃から善行店の一角にカレンダー募金用のポスターとダンボール箱を設置すると、そこに組合員さんが次々とカレンダーを寄付してくれるという形。箱が満杯になるとメンバーが自宅に持ち帰って保管...ということを繰り返すそうで、今回集まった数は200本を超えていたと思われます。当日は朝早くからメンバーの方が集まり、カレンダーを仕分け、値段を付け、紐を通してパイプハンガーに下げたり、小さいものはテーブルの上にセットしたり...と大忙し。筒状に丸められたカレンダーを見やすい様にまっすぐに伸ばす作業は、本数が多いだけに大変なことと思います。店頭でやるのは1日限りですが、お店の協力を得て1月中はカウンターで受け付けてくれているので、最終的には300本を超える数になるとか。多い時には500本近く集まったこともあるそうです。すごいですね！



これが秘策の手作り組み立て式カード陳列キット

## 自分たちにも出来るかも...

きっかけは13年前。委員としての任期を迎え委員会活動を終えようとしていた時、せっかく知り合った仲間たちと一緒に何か出来ないだろうかということになりました。その時、以前参加した生協間の交流の場で聞いた、コープさっぽろの“カレンダー募金”の取り組みを思い出し、「あの活動なら私たちにもできるかもしれないね」ということになり始めたそうです。

生協間交流の場がそんな風に活動のきっかけになれたなんて、主催者ではないけれどなんだかうれしくなりました。だってぼむぼむ通信の目指している姿はまさしくそれなのですから...。(谷杉)





## とくしま生協のばあい



とくしま生協では本部の会議室やロビーにカレンダー募金のコーナーを設けて、会議や取り組みで本部に来られる組合員さん、取引業者の方、役職員に協力を呼びかけました。

「募金でこんな立派なカレンダーがいただけるのですか」と驚かれる方や、飛行機（全日空）のカレンダーを見つけて「年末に探したのに無かったんです。とてもうれしい」と定価に近い金額を募金された方もいました。また、「子どものバレーボールチームのみんなに贈りたい」とまとめて15部分の募金をされた方も。

カレンダー募金のシステムについて質問があった方に説明すると「生協さん、ユニセフさん、業者さん（伊東屋）が一体となった価値のある取り組みですね」と感想をいただくことができました。取り組んだ3日間で、のべ約60人の方から24,173円の善意が集まりました。（とくしま生協・武林さん）

### <コープえひめ>

コープえひめでもカレンダー募金をおこなっています。組合員交流会でカレンダーを展示・販売しました。組合員さんの子どもが募金箱を持って大活躍！（コープえひめ・海田さん）



### <カレンダー募金の仕組み>

カレンダー募金には、“あしたば”グループのように地域の人々からカレンダーを集めて販売する方法と、ユニセフ協会からカレンダーをもらい受けて販売する方法の2つがあります。

ユニセフ協会では、この間年明けに、文具店さんの伊東屋さんから売れ残ったカレンダーの寄贈を受けています（一部企業などから贈られることもあります）。従って、生協にお届けできるのは1月末から2月頭になります。生協では、店頭で販売したり、組合員行事の際に紹介したりして結構喜ばれています。

2004年は、15生協でおこなわれました。ユニセフ協会の県支部と協力しておこなっている生協もあります。

カレンダー募金 完売すれば、バンザイ！でも残ってしまうんですね。そこで有効活用の仕方を聞いてみました。

皆さんの良い方法を教えてくださいね！（茂垣）

余ったカレンダーどうしていますか？

裏紙を名刺に活用

くらしのすけあいの会へ 託児等に

公民館にあげると喜ばれるみたい

保育園や幼稚園も大歓迎

# ユニセフ活動カレンダー

「4月からの1年間、ユニセフ活動をいつどんな風にやればいいんだろう？」

活動計画をたてる参考のために、さまざまなユニセフ協力活動を年間カレンダーにしてみました。

月	生協での活動例	日本ユニセフ協会・日本生協連からのお知らせ
4	ユニセフラブウォーク*	ユニセフリーダー研修・交流会の案内 カタログ「ユニセフ・カードとギフト春夏号」発行
5	ユニセフ募金キャンペーン	
6		
7	写真展開催	
8	ユニセフリーダー研修・交流会参加	ユニセフリーダー研修・交流会開催 (関東・関西の2会場・1泊2日)
9		カタログ「ユニセフ・カードとギフト秋冬号」発行
10	組合員のつどいやコープまつりでチャリティーバザーやチャリティーコンサート	ハンド・イン・ハンド案内
11	ユニセフカード・グッズ案内チラシ配布	カレンダー募金案内
12	機関紙にユニセフ特集を掲載 ハンド・イン・ハンド**	
1	お年玉募金	
2	カレンダー募金	1月末～2月上旬カレンダー発送
3	ユニセフ募金贈呈式	年度末募金送金
通年	ユニセフハウス見学会 ユニセフ学習会 店舗に募金箱設置	ユニセフ・スタディツアー (時期は年度によって異なります) 緊急募金のご案内(随時) 資料(チラシ・ポスター)のご案内(随時)

\*ラブウォーク 一定のコースを設定しウォーキング大会を実施し、その参加費やスポンサーからの賛助金を募金し、健康づくりと参加者の募金を開発途上国の子どものために役立てる楽しいイベントです。

\*\*ハンド・イン・ハンド 12月を中心に、市民ひとりひとりがボランティアとして参加する全国的なユニセフの募金活動です。

## <活動計画の参考に...>

2003年8月に発行した「やさしさをかたちに - 生協協力活動事例集」では、上のカレンダーにあるような様々な活動に実際に取り組まれた生協をご紹介します。ぜひ、この冊子を活用し、それぞれの活動の組み立ての参考としてください。

冊子は昨年夏に各生協にお送りしていますが、追加の冊子をご希望の場合は1部までは無料、それ以上は1部100円でお送りいたします。日本ユニセフ協会協力事業部 生協担当までお申込ください。(FAX 03-5789-2032)



# 私たちの生協では...

2003 年度の活動内容の一部をお聞きしました！

それぞれ特色のある活動をされています。

みなさんの活動のヒントにされてはいかがでしょうか？

## いばらきコープ

- 春 ・ 日本ユニセフ協会水戸の会が主催するラブウォークに参加しました
- ・ イラク緊急募金を共同購入と店舗で展開しました
- 夏 ・ ユニセフカードカタログを組合員に見ていただきました。
- 秋 ・ ユニセフ製品（秋・冬号）のチラシを配布しました。
- ・ ユニセフの会と他団体協賛でワンコイン・チャリティコンサート開催し、ユニセフカードの売上を全額募金しました。
- 冬 ・ お年玉募金を実施。配達トラック全車にポスターも掲示しました。募金の一部はイラン地震緊急募金にしました。
- 通年 ・ 各エリアでユニセフハウス見学会を開催。親子 30～40 名の参加者でバスツアーを組みます。



コープインフォメーションのお年玉募金記事

## 京都生協

- 春 ・ 28 の行政区委員会に事前にユニセフの活動メニューをお知らせし、行政区委員会は活動メニューをひろばに広げていきます。
- 夏 ・ 行政区委員会がそれぞれ夏休み親子学習会を計画。講師は京都生協ユニセフサポーターが担当。
- ・ イラク緊急募金に取り組みました。
- 秋 ・ お年玉募金贈呈式実行委員会スタート。5つのブロックで毎年持ち回りで開催し、これにより毎年担当の行政区委員会にユニセフについて関心を広めてもらうきっかけとなっています
- ・ ユニセフサポーターによるユニセフ活動大学学習会では、ユニセフ学習と各地のユニセフの活動の交流をすすめています。贈呈式実行委員会もユニセフについてここで学びます。
- 冬 ・ お年玉募金の取り組み。子どもが直接読んでもらえるような紙面づくりに努力します
- ・ ユニセフ募金贈呈式は手作りがモットー。ユニセフや募金の使われ方について広く組合員に理解してもらいます。
- 通年 ・ ユニセフサポーター会議を毎月行い、ユニセフ活動の理解を深めています。

今回取材させていただいた2生協の担当者の方からメッセージをいただきました。

ありがとうございました！（林田）

### いばらきコープ 組織活動本部 寺内さん

ユニセフ活動に対し「組合員に参加してもらうにはどうしたらよいか」「忙しい今どきの子どもをどうやって引き寄せるか」という課題を考え、「募金がどう使われているかを伝えることが大切」「子どものうちから知ってもらいたい」という思いをさらに広げるためのアイデアをどんどんだしていってください。

### 京都生協 組合員活動企画室 松本さん

近年、国際紛争が激しくなり、それにとともに子どもの被害が広がっています。このことについて心をいためる組合員さんが自分から京都生協に問い合わせるユニセフサポーターに参加されてこられるケースが増えています。国際情勢が悪くなっていますが、このことに心をいため、自分の何かしたいという組合員の思いを汲み上げる活動にこれからしていきたいと思っています。



# アフガニスタンへ 継続的な支援を！

## ユニセフ アフガニスタン報告会

昨年 12 月 19 日、日本生協連において、ユニセフのアフガニスタンにおける活動状況の報告会が開かれました。当日はユニセフ・アフガニスタン事務所の日本人教育担当官である金澤さんが、集まった約 50 名のスタッフを前に、現地の状況を説明くださいました。

### アフガニスタンの現状

アフガニスタンでは 4 年連続の干ばつの影響もあり、例えば 5 歳未満死亡率は計算上 1000 名中 172 名が死亡することになり、日本の約 5 名死亡という数字とは比べものにならないほど高い数字だといえます。10 歳以上の文盲率は男性で 51%、女性は 80.4% です。この数字は平均ですが、農村部における女性の文盲率は 87% にもなり、村によっては文字を読める女性は一人もいないことも珍しくありません。また家族数も多く、金澤さんがいらっしゃる宿舎の門番の方には子どもが 15 人もいるそうです。



今回報告いただいた金澤大介さん



女の子もテントスクールで勉強ができるようになった

### 学校に行ける女の子が増えた？

2001 年には学校に通っている女の子は 5% でした。2003 年の女の子の進学率は 39.6%。支援の成果もあってかなり上がってはいますが、男の子の 66.8% に比べるとまだまだ低いといえます。

ユニセフでは女の子の進学率を上げるために、保護者にたいする調査を行いました。その結果、

女子校があれば学校に行かせてもいいが、男女共学は困る。

学校まで片道 2 - 3 時間もかかるので女の子一人では行かせられない。

という声が多いことが分かりました。旧来の「女性に教育は不要」という考え方と、この 2 つの声が、女の子の進学率アップを阻んでいるのです。

### ユニセフのこれから活動の 3 つのポイント

先の調査結果を受けて、ユニセフではアフガニスタンにおける 2004 年の支援について、3 つのポイントを考えています。

村ひとつにひとつ、女の子のための学校を 公民館やテントのような仮設の施設を含みます。

政府との連携強化 これは教師育成や教育教材・カリキュラムの開発などを指します。

女の子の教育についての社会的啓蒙活動

特に地方では「女性に教育は不要」という考え方が根強いいため、ユニセフでは様々な手段で啓蒙活動に取り組みます。

### 今後とも関心を失わずに

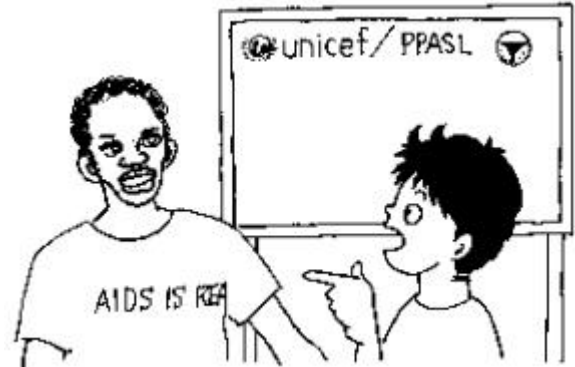
アフガニスタンでは緊急支援の段階は終わりつつあるといえます。しかしこれからアフガニスタンの政府が外部からの支援なしに独力でやっていけるという状態になるまで、まだまだ支援を継続することが大切です。これまでの生協の支援に心から感謝するとともに、今後とも関心を失うことなく支援を続けてくださいますように、と訴えて金澤さんは報告を締めくくりました。(皆地)

# 世界の子ども達は今

## 気軽に立ち寄りエイズを学ぶ - シエラレオネ -

18歳の少年マイケルは言います。「僕の友達にエイズなんて存在しないんだって言っているよ。でも、ここ、「青少年情報センター」に来るようになって初めてエイズが確かに存在することが分かったんだ。

青少年情報センターがあるのは、アフリカのシエラレオネの首都フリータウン。シエラレオネは5歳未満の子どもの死亡率が1000人中316人と、世界で最も高い国ですが、エイズ問題も深刻で、14歳未満の子どものエイズ感染者数は推定1万6000人にのぼります。



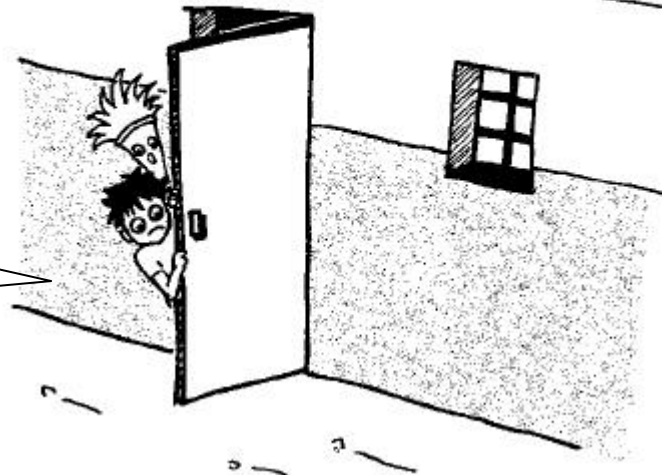
この青少年情報センターは、ユニセフとシエラレオネ家族計画協会が運営しています。行き交う人や車で混雑した街路にセンターの出入り口があり、青少年が気軽に立ち寄り、ゲームも楽しめるのがこのセンターのメリットです。

1日に2回ボランティアの少年がカウンセラーとして、また仲間として、HIV/エイズに関する知識を教え、話し合いをします。カウンセリングの終わりには、パンフレットを配ります。

### 「青少年ヘルスセンター」

HIV / エイズや他の感染症の相談  
無料の妊娠判定テスト  
HIV 感染テスト

同じ建物に人目につかないもう一つの出入り口があって、こんなこともしているんだね。



(文：松本、絵：蛭沢)

# この国 どんな国？ シエラレオネの巻



## 子どもたちの心のケアも 戦後復興の大きな課題

西アフリカのシエラレオネの平均寿命は **38.3 歳**。栄養不良や病気で **3 人に 1 人** の子どもは **5 歳** まで生きられず、**100 人に 1 ~ 2 人** の妊産婦が出産時に亡くなります。**世界でいちばん寿命が短い国**です。



### 深い戦争の傷跡

シエラレオネはイギリス領植民地から 1961 年に独立。国を豊かにしてくれるはずの**ダイヤモンドの利権**をめぐり、91 年から反政府軍（RUF）と政府軍の内戦が始まりました。この内戦は国中に広がり、約 5 万人が亡くなり、100 万人以上が難民・避難民となりました。西アフリカ諸国経済共同体監視団や国連シエラレオネ監視ミッションが介入して、00 年に政府と革命軍で停戦合意が成立し、02 年にカバ大統領が国家非常事態の終了を宣言。しかし、10 年以上の及んだ内戦の傷跡は深く、子どもたちの心とからだにも大きな爪跡を残しています。

### 甚大な子どもたちへの影響

残虐な反政府軍は恐怖心を与え働き手を奪うため、幼児や子どもを含む 1000 人以上の人の**手足を切断**しました。反政府軍は子どもたちを誘拐し、銃を持たせて兵士にしました。恐怖を麻痺させるため麻薬を与えられ人殺しをさせられた**少年兵**もいます。誘拐された女の子は性的な虐待を受けました。子どもたちの心のケアも大きな復興課題となっています。誘拐されたのに、戦争が終わっても、親を殺され、反政府軍にいたことで嫌われ、村に戻れない子どもたちも多いとか。また、今もダイヤモンド鉱山では、過酷な労働条件のもとで働いている子どもたちが 1500 人以上います。



©:unicef/HQ98-0493/SIERRA LEONE /PIROZZI

### みんなが幸せになれるように

こうした子どもたちのために、ユニセフをはじめ、NGO などが、少年兵や性的虐待を受けた女の子が家族と再会し、自信をもって生きていけるように心のケアを行い、女の子や手足を失った人のための職業訓練施設などを設置するなどの支援を行っています。戦争の犠牲となった子どもたちの現実はずらく悲惨なものですが、「**将来は学校の先生になりたい**」などと目を輝かせる子ども、そして、支援を得て少しずつ笑顔を取り戻していく子どもたちがいます。差しのべられる手により、一足ずつ前に進みだしている子どもたちの姿を見ることができます。（尾澤）

## ぼむぼむ広場

ぼむぼむ通信第 23 号をお届けします。タイトルが元に戻りました。内容面でも、生協の取り組みを中心に据えて構成を図りました。

なるべく読みやすい紙面構成をめざしたつもりですが、忌憚なく叱咤激励を寄せてください。

私の生協での取り組みを教えてくださいのりporter大募集中です。まずはご連絡ください！

次回発行は、6 月 15 日予定です。お楽しみに！

## ユニセフ＊コープネットワーク ぼむ・ぼむ通信

No. 23 2004 年 3 月 15 日発行  
編集 **グループ ぼむ・ぼむ**

スタッフ・編集 / 尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・  
松本・山本・林田・皆地・茂垣

イラスト / 蛸沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コーププラザ 11 階

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://www.iccu.coop/>

メール [kumikatsu@iccu.coop](mailto:kumikatsu@iccu.coop)